

様式第2号

視察研修先	山口県美祢市議会	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	美祢魅力発掘隊の取り組みについて		
<p>【概要】</p> <p>美祢市は山口県西部のほぼ中央に位置し、人口24,046人・面積473km²、主要国道3路線、高速道路IC箇所、JCT1箇所、主要産業は農業、観光業、鉱業となっている。中でも、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や東洋屈指の大鍾乳洞など豊かな自然環境や観光資源がある。</p> <p>魅力発掘隊は赤郷地域を「地域づくりのモデル」と見据えた取組みを行っている。地域内外へ地域の魅力発信と地域課題に対する提案・実践を行っている。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>東京で開催された回帰フェアに参加した方が、山口県美祢市の「美祢魅力発掘隊」として努めることになった。着任後、様々な会議や会合に参加し名前と顔を出すことで多くの市民に知られるようになった。地域の魅力発信に独自の「地域情報誌」や「地域カレンダー」を発行するなど活発に活動している。少子化により市立赤郷小学校が閉校計画となり、小学校及び閉校事業実行委員会の事務局委員としてHP・SNSの作成・運営協力に活動されておりました。</p> <p>「赤郷小学校閉校記念式典」や「お別れ会」が行われ、閉校カウントダウンを実施し、式典では地域内外より多くの方の来場があった。PR・周知が功を奏したことである。</p> <p>交通弱者支援にも行政が計画されているデマンドタクシー運行計画にも協力的に活動を行っておりました。さらに、少子高齢化社会が危惧されていることから、東京で開催されている山口県央連携都市圏域移住フェアに参加し魅力発信にも貢献している。</p> <p>地域おこし協力隊は今後とも、やる気のある方々の創意工夫を最大限に活かし、本市の市政発展にご尽力をいただきたい。</p>			

様式第2号

視察研修先	山口県山陽小野田市議会	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	豪雨災害対策について		
<p>【概要】</p> <p>山口県の南西部に位置し南は瀬戸内海に面し、東は宇部市、西は下関市、北は美祿市に接している。平成17年に小野田市と山陽町が合併し山陽小野田市が誕生した。</p> <p>江戸時代から干拓事業が行われ、小野田地区の平地の多くはその際に生じたものです。山陽地区でも、堰を設けて沼地を良田にする事業が行われておりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇平成3年 9.27台風19号 ◇平成11年 9.24台風18号 ◇平成21年 7.21豪雨被害 ◇平成22年 7.15豪雨被害 ◇平成30年 7月豪雨被害 <p>【感想・所見】</p> <p>災害が発生する要件と自分の住んでいる地域の特性を認識すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇川や海が近く洪水・高潮・津波の恐れがある。 ◇地盤が低く浸水害の恐れがある。 ◇山や崖が近く土砂災害の恐れがある。 ◇地盤が弱く地震による被害の恐れがある。 <p>高潮ハザードマップ・洪水ハザードマップ・土砂災害ハザードマップを策定されている。警戒レベルの避難行動は、分かりやすい具体的な言葉として記載しており参考になりました。市のHPには、洪水の危険性がある地域、土砂災害の危険性がある地域、台風による高潮の危険性がある地域を警戒レベル表示等で記載している。緊急情報を入手する方法として、防災行政無線(屋外拡声器)・広報車・自治会長・民生委員への電話連絡。一般向けとして、市のホームページ、防災メール、防災ラジオ、テレビ(Lアラート)、ヤフー防災速報。防災ラジオは、市から緊急情報が発表されたとき自動で起動し、放送が流れる。携帯電話を所持していない方々を主に推進し、自己負担金2,000円で購入(1台9,000円のところ市が7,000円補助)できる。</p> <p>自主防災組織へ防災出前講座や校区、自治会で実施される防災訓練への参加、指導を行っている。防災協定53事業所と締結している。防災訓練、職員への研修の実施。大変参考となり、本市においても活用したいものであります。</p>			

様式第2号

視察研修先	山口県下関市議会（下関市消防局）	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	消防団への入団促進の取り組みについて		
<p>【概要】</p> <p>下関市は、本州と九州及び大陸との接点でもある地理的条件から要衝として古くから栄えてきた街である。人口261,403人で中核市となっている。代表する味覚はフグ。福を招くよう、下関では「ふく」と呼ばれている。</p> <p>◇消防団員数1,977人</p> <p>◇実員 1,845人うち女性68人、市職員140人</p> <p>◇充足率 93.3%</p> <p>雇用失業情勢に鑑み実施された緊急雇用創出事業として消防団PRキャンペーンを市内全域で展開し、消防団の存在と活躍を市民に広く認知してもらうとともに、消防団の士気の向上を図ること、併せて消防団員の入団促進を図り団員確保を目指す。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>入団促進として、消防団PRキャンペーン隊のマスコットキャラクターを制作し取り組んでいる。広報誌の作成及び配布、消防関係者のラジオ出演、集客施設やイベント会場等におけるキャンペーン、アンケート調査、下関市消防団ホームページの活用、消防団PR等支援自動販売機設置9箇所、さらに、消防団入団CMを企画、制作し視聴率の高い時間帯に放映し若者をターゲットとして放送していることに感銘した。女性消防団員を新聞の取材時に積極的に活用し、CM制作と放送にも活用していた。</p> <p>団員同士の様々な活動やCM制作活動を通しての輪ができ、団員による声掛けによる団員確保が行われているとお聞きし、活動や事業を展開することでコミュニケーションが活発になることは、大変素晴らしいことだと思います。本市においても消防団の存在と活躍を市民に広く認知してもらう活動を切に願うものであります。</p> <p>また、市内の大学、大学院若しくは専門学校に在学しながら、継続的に消防団活動に取組み地域社会に貢献をした者に、その功績を認証することにより、本市がその就職活動を支援することで大学生等の消防団活動への参加を促進し学生消防団活動認証制度を実施しているとのことでありましたが、本市においては、大学もなく少子化である現状からみて制度は難しいと感じた。</p> <p>消防団協力事業所は29事業所となっており、さらに平成28年より建築工事総合評価競争入札において地域貢献度の加算項目に消防団協力事業所の登録の有無が追加され17事業所が増加した。消防団活動協力で温かい街であることに感動しました。</p> <p>本市においても協力事業所が増加することを願っております。</p>			